

Let's Know Hiroshima Castle.

しろや！ 広島城



No.56



ハピバ!広島城天守

感謝・還暦!広島城

原爆投下により倒壊した広島城天守閣は昭和33年(1958)に再建され、同年6月1日に広島城郷土館(博物館)として開館し、今年で還暦(60年)を迎えました。

その間、復興した広島市の街のシンボルとして市民の皆様や国内外の多くの観光客から愛され親しまれ、平成27年(2015)には入館者数が1,000万人を突破し、全国的な「お城ブーム」もあり、ここ数年は毎年30万人以上の入館者があります。

こうした皆様のご愛顧にお応えして、60周年記念イベントとして、6月1日から企画展「感謝・還暦!広島城~よみがえった城」を開催し(~9月2日)、6月3日に「広島城開館60周年メモリアルデー」を実施しました。



賑わったメモリアルデー

企画展では、展示前に見つけた「二代目天守閣」の貴重な映像も合わせて公開し、戦後復興に込められた人々の願いや生活に触れるとともに、明治以降の全国的な城の復元の歴史をたどりながら、現在の町のシンボルとしての「城」の在り方を考えています。

また、メモリアルデーでは、サンフレッチェ広島初代アンバサダー森崎浩司氏による「三本の矢」スペシャルトーク、ひろしま紙芝居村の「広島カープ昔話」、安芸ひろしま



武将隊の演舞、ボランティア(ひろしま歴史探検隊)の協力を得てのビンゴゲームや兜試着体験など多くのイベントを実施し、2,000人を超える参加者の皆さんに広島城の還暦を祝っていただきました。

今後とも私たち広島城職員は、様々な企画展や関連・普及事業、各種イベントを通しながら、子どもたちには広島城(広島県・市)



大人気の試着体験コーナー

の歴史と平和教育を学んでもらい、「郷土広島」に誇りを持つとともに、将来世界に通じるグローバルな人物に育って欲しいと願っています。大人の皆様には、改めて広島城の魅力を堪能していただき、「広島人」としてのアイデンティティを持ち続

けて欲しいと思っています。

皆様、この機会にぜひご来館されて、私たちと一緒に還暦をお祝いしていただくとともに、広島城が古希、喜寿、米寿、白寿と続くよう、今後の変遷を見守ってくださるようお願いいたします!心よりお待ちしております。

広島城館長 中木 啓



またまたスクープ!!

★イノシシ広島城攻め顛末記★

2018年4月25日の昼下がり。広島城にイノシシが攻め込んできました。広島城はイノシシが攻めてくることを想定して築城されていません。訓練も受けていません。「いざとなったら橋を封鎖せよ。」え?いや、しかし、どうやって?職員は慌てました。

そのイノシシは城下町の西、己斐の山(西区己斐上)から4本の川を越えてやってきました。右上の図を見て下さい。目撃ポイントから、だいたいのコースが読み取れます。走行距離にして約6.5kmを、水陸移動したと考えられます。

己斐橋を渡って太田川放水路を越えて平和大通りに出たみたいです。「あ、どんぐりの木がある」と思いながら、西区役所の前を通過します①。次の天満川を天満橋の一本南の橋を渡って走っていると、路面電車と出会いました。生まれて初めて見る電車にびっくりして、思わず土橋電停あたりから右折しました②。そのまま本川橋で3本目の本川を渡り平和公園を突き抜けました。

公園内の修学旅行や観光客の多さに、イノシシはパニックMax。目前の元安橋も目に入らず「橋はどこ?橋がない!」。仕方がないので、護岸に降りて川に入りました③。泳いで北上していると対岸に素敵な雁木があったので、そこから岸に上がりました④。渡りに雁木でした。



ドーム前の雁木

ふと見上げると原爆ドーム。後にも先にも原爆ドームを見たイノシシはいないと思います。ここにも多くの見学者がいたはず。特に海外の方は、街を疾走するイノシシを見てさぞびっくりだったでしょう。「Why Japanese Inoshishi!」ブルブルする暇もなく、あっけにとられる人々を尻目にドーム前のツツジに突進しながらさらに北上。路面電車も走る目貫通りである相生通りを、車に気をつけなが

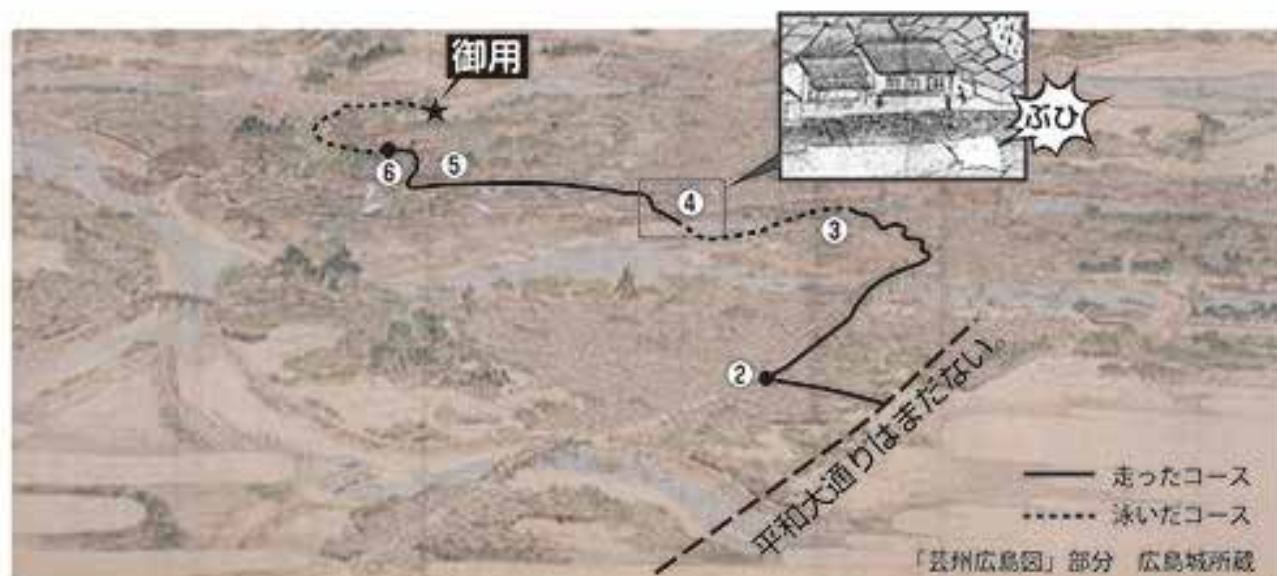


ら横切りました。その後の足取りは妄想するしかないのですが、旧市民球場の横を通り抜け、城南通りを横断しました⑤。広島城の内堀前でおまわりさんと鉢合わせし、意を決し「ごぼん!」と堀に飛び込みました⑥。泳いで本丸を目指すことにしました。石垣の上にそびえる天守は猪目にはどう映ったのでしょうか。堀をぐるりと半周して、本丸の石垣を登ろうと試みましたが、ここでイノシシの誤算が…。堀には雁木はない。チョキ足では石垣を上がるのは無理です。どこからも本丸に上がることはできませんでした。鉄壁の防御を備えた広島城の前に、なすすべもないイノシシは、裏御門あたりまではたどり着きながら、あと一歩のところまで、駆け付けたおまわりさん達によって御用となってしまいました。



裏御門跡で引き上げられるイノシシ

もしも堀に飛び込まず、堀沿いに陸路を進めば、突破できたかもしれません。我々は橋を封鎖するすべを知りませんでしたから。でも江戸時代であれば、門や堀があり、門番もいたので簡単にはいかなかったのでしょうか。と、ここで終わったのでは「しろうや」らしくありません。ちょいとひとひねりいたしましょう。



上の絵は「芸州広島図」といい、描いたのは江戸時代後期の絵師、立野芳山だと考えられています。芳山は元々は足軽でしたが、藩で絵師として活躍した岡銀山の弟子になり、やがて自分も絵師になった人です。1830年頃の広島城下を精密に、且つ生き生き描いています。紙面では小さくて見えないのですが、実は数えきれないほどたくさんの人物が描かれています。（今度数えてみよっと。）

さて、イノシシが暮らしていた山からの景色はきっとこんな感じ。城下が一望できますね。太田川放水路はなく、己斐から城下まで5本の川が流れていました。もちろん平和大通りもありません。干拓によって広がった新開地の田園地帯でした。きっと右手に海が見えたはず。天満橋は江戸時代からありましたが、今回イノシシが渡った橋はありません。本川橋の通りは西国街道といい、京と九州を結ぶ重要な道でした。毛利氏の時代にはもっと北を走っていたようなのですが、二代目城主福島正則によって、城下に引き込まれ整備されました。そして多くの人々が往来する目貫通りとして発展しました。今の平和公園のあたりは、民家が密集したくさんの人々が暮らしていて、とてもにぎやかな場所だったそうです。イノシシが上がった雁木は、江戸時代には川のあちこちにつくられていました。雁木とは、舟の発着のために河岸につくられた階段のような船着き場です。潮の干満の影響を受けずに利用できる優れたものです。広島川には、今も当時のままの姿で残っているところがあります。

相生通りは元々城の外堀でしたが、とうに埋め立てられているので、車に気をつけさえ

すればあっさり城内に侵入することができたのでした。河岸の雁木はイノシシにも便利なしろものですが、お城の堀は違いました。皮肉にも今回の事件で、堀と石垣が今も鉄壁の防御となって広島城本丸を守っていることが分かりました。



なぜ、イノシシが広島城まで来たのかは分かりません。ただ彼女は母でした。山の麓ではぐれたわが子を探し、迷い込んでしまったのかもしれませんが、しかし、女だてらにたった一人で猪突猛進、城下を駆け抜け、広島城に攻め入ろうとしたのです。あっぱれ！と讚えたい。（岡野孝子）

★お披露目!新着資料紹介★ 頼山陽筆「泊天草洋」

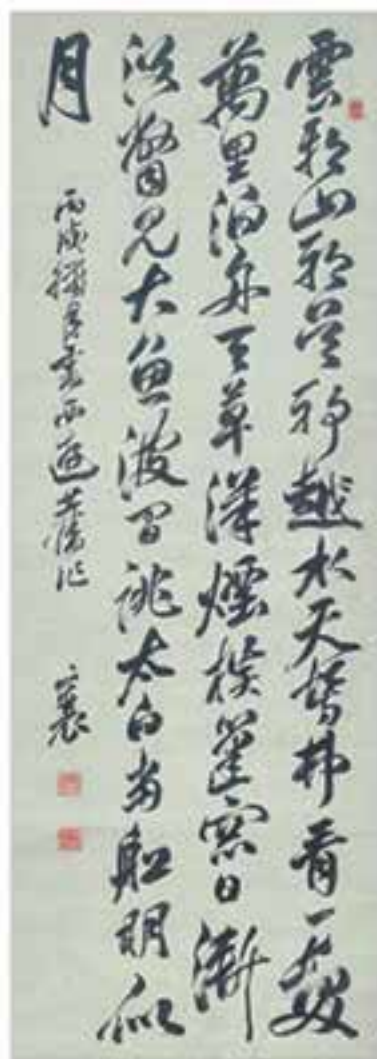
わし、頼山陽。どーじゃ、なかなかいい書じゃろ!なに、読めんじゃと!これはわしが九州に旅行に行った時に作った詩を書いたものじゃ。父上(頼春水)の三回忌が終わった文化15年(1818)3月、わしは九州旅行へと出かけた。まず長崎を目指したんじゃよ。長崎は当時国際都市で、多くの人達が集まる大都会だったから、ぜひ一度行ってみたいところじゃった。途中元号が改まり文政元年(1818)5月に到着した。そこで約3か月間滞在した後、熊本を目指して船に乗ったんじゃ。天草富岡(現在の熊本県天草郡苓北町)に寄港した時、大海原を目にしてこの詩が浮かんだのじゃ。若い頃から中国の歴史を深く勉強しとったからのう、雲だろうか山だろうか、それとも昔の呉の国だろうか、越の国だろうかと、遠く海の向こうに思いを寄せたことからこの詩は始まるとんじゃ。詩から壮大な海の情景が目の前に飛び込んで来んかの?この九州旅行はわしにとって、たくさん刺激を受けた旅じゃった。各地でいろんな学者たちと交流を深めたりしたし、酒の味を楽しめるようになったのう。

このほかに、豊前国(現在の大分県)を訪れた際、山国川の溪谷を案内してもらったんじゃ。ここがものすごく美しい場所で感動して、それまで「山国谷」と呼ばれとったんじゃが、中国の風景が思い浮かんだので、「耶馬溪」と中国風に名付けたんじゃ。この地名は今でもそのまま使われておる。わしってすごいじゃろ。
(山陽一幸)

雲か山か呉か越か 水天髪髻青一髪
万里舟を泊す天草の洋 煙は蓬窓に横たわりて日漸く没す
瞥見す大魚の波間に跳るを太白船に当たりて
明らかになること月に似たり



山陽くん



現在の耶馬溪のようす 中津市提供

しろや
!
広島城

編集・発行
公益財団法人広島市文化財団
広島城
〒730-0011
広島市中区基町 21-1
電話：082-221-7512
FAX：082-221-7519
平成30年6月27日発行

広島城利用案内
開館時間：9:00~18:00
(12月~2月は9:00~17:00)
入館の受付は閉館の30分前まで
観覧料：大人370円(280円)
高校生相当・シニア[65歳以上]180円(100円)
()内は30名以上の団体料金
休館日：12月29日~31日(臨時休館あり)
ホームページ <http://www.rijo-castle.jp>